飛耳長目〈第 22 回〉開催概要

日　時	令和6年11月25日(月)　午後3時から午後4時30分まで
場　所	安曇野市役所2階 201会議室
テーマ	サッカーを活用してのまちづくり
参加者	安曇野市サッカー協会　7名

市内におけるサッカーの競技環境

参加者　安曇野市には精力的に活動しているチームが多くある。安曇野 IC が近いことから、冠を付けた大会を行うことでより多くの人を迎えることができると思うが、競技施設の整備が課題である。また、学校教育におけるスポーツ振興のため、通年且つ夜間に利用できる施設が必要だ。

参加者　サッカーは幅広い年齢の人が楽しめ、地域活性化にも力を入れているスポーツ。ホームタウンである松本山雅 FC もあり、盛り上がっている。安曇野におけるサッカーの歴史は、全国シニアサッカー大会や高校サッカー選手権大会、小学生の全日本サッカー大会に市内のチームが出場している。JI 京都サンガ FC でプレーする麻田選手など日本代表歴のある安曇野出身者もいる。松本山雅ＦＣの前身・山雅サッカークラブには、多くの市民が選手として活躍した。現在は小学生７チーム２７７人、中学生５チーム２０２人、高校生２チーム７５人、女子２チーム２３人、社会人４チーム７７人の計２０チーム６５４人が市サッカー協会に登録している。

人工芝グラウンドのメリットと必要性

参加者　市内には天然芝の牧運動場があるが、使用できるのは５～１０月のみ。また、使用できる日も火・木・土・日曜と限られ、大雨の時は使用ができず、雨天後や朝露がある時は石灰でラインが引けないことが課題である。人工芝であれば芝刈りや水やり、肥料散布が不要になる。また、維持にかかるコストが少なく、施工時にラインを引いてしまえば以降のライン引きは不要となる。冬季や悪天候でも使用でき、安全性が高く選手の衣服も汚れにくい。

参加者　安曇野市はサッカーが盛んで、子どもの健全な育成にも大きな役割を果たしている。サッカーが楽しいと思える一つの要素は芝生でプレーすること。最近は人工芝が普及し、競技として広がりを見せている。部活動の地域移行も課題はあるが、解決には指導を行う人材と活動場所の確保が必要だ。活動場所としては、照明付きのグラウンドは他の屋外競技、冬季でグラウンドが使用できない時は屋内競技と体育館の使用が重複する。人材確保では、夜間なら協力できる指導者もいるため、人工芝の照明付きグラウンドがあると課題が解決できる。

参加者　県内でも人工芝のグラウンドを整備する流れがあり、松本市と塩尻市には整備されている。勤務する豊科南中学校のグラウンドは照明がないため、冬季は体育館で活動しているが、屋外で練習できれば生徒の技術や意欲向上につながる。通年使用できる人工芝のグラウンドがあれば、そこが拠点になり子どもたちが体を動かす機会が増える。市としても前向きに検討していただきたい。

市長　人工芝のグラウンドだけでなく、野球場やコンサートホールを作ってほしいという要望もある。想定している具体的な場所はあるか。

参加者　市営県民豊科運動広場が良いと考える。大会会場となるのであれば豊科・穂高地域の中心部が良い。宿泊や交通アクセスを考慮すると安曇野ＩＣに近い場所が最適だ。

市長　グラウンドが人工芝になると、野球とサッカーで併用ができないことが課題だ。

参加者　須坂市では野球と併用できる人工芝のグラウンドを整備した。市に市営県民豊科運動広場の大きさを調査してほしいと依頼したが、どうなっているか。

市担当者　サッカーコートは南側に１面取れるが、フラットで２面取ることは難しい。

市長　牧運動場は天然芝を残したいと考えている。

参加者　人工芝のグラウンドがあれば広域大会の１会場として利用できる。国民スポーツ大会でも人工芝を併用して行うことが多いので、将来的に必要な施設だ。天然芝も良いが、利用期間が限られるため使用頻度は低くなる。

市長　大会時、観客用のスペースはどのくらい必要か。必要な土地の広さで既存の施設を活用するか新規に整備するか方向性が決まってくる。

参加者　県内では既存の施設を人工芝化した事例もある。市営県民豊科運動広場の場合、野球場の外野を芝生にすればサッカーコートを確保できるのではないか。両サイドを野球場とし、それ以外を人工芝にできないか。

市担当者　そのような使い方は想定していなかった。野球とサッカーのコートの広さや競技時に引くラインの違いが課題になると思う。

市長　既存の施設を人工芝化したのは須坂市か。市の財政が厳しくなり、どのように折り合いをつけていけばよいか考えている。場所さえ目途がつけば動き出せることはある。

小中学校グラウンドの人工芝化の可能性

参加者　こども園では園庭の芝生化を進めている。小中学校のグラウンドを人工芝化することはできないか。

市長　子どもたちが学ぶ環境を変えるのは難しいのではないか。

参加者　松本市の旭町中学校はグラウンドを人工芝にしたことで生徒が休み時間に外で体を動かすようになり、学校での過ごし方が変わったという話を聞いた。人工芝化すれば体育の授業でも新しい使い方ができる。

市長　一般利用者は学校のグラウンドをいつ使用しているのか。休日は一般に開放しているのか。人工芝化となると、解決すべき課題は多い。

参加者　土曜は学校や部活動、部活動の地域移行が優先的に使用できるとし、日曜は一般に開放するといった併用の使い方ができればよい。

市長　旭町中学校のグラウンドはどのような使い方をしているのか。また、照明はあるのか。

参加者　平日は学校で使用しない時間に一般へ開放している。休日は部活動が優先して使用しており、照明も完備している。グラウンドには野球場もあり内野は土になっていて、外野に人工芝がかぶっている作りになっている。

参加者　人工芝化が実現すれば、子どもから高齢者まで状況に合わせたスポーツ教室が開催でき、健康づくりにつながる。教育の面では、子どもの運動神経や体力向上につながり、部活動の地域移行でも活用できる。産業振興の面では、県外チームを招待しての大会や合宿の開催により、宿泊施設など観光業の発展も期待できる。またその際、農産物や工業製品を販売できれば市の認知度向上にもなる。施設運営面では利用者が増えることで、施設利用料の増加が見込まれる。さらに、冬季期間中の屋内施設の予約が集中しなくなる。人工芝は雑菌や害虫が繁殖しにくく清潔な環境を保てるため、他の競技にも使用できる。サッカーの普及や技術向上の面では、子どもたちが市外のチームに属さなくても、地元でプレーできる環境が整う。

人工芝整備で活用できる助成制度

参加者　場所の問題もあるが、日本サッカー協会では補助事業を行っている。人工芝グラウンドの新設や既存のグラウンドを人工芝化する事業を行う自治体には、９０００万円を上限とした施設整備助成金があり、経費の２分の１が助成される。利用には都道府県サッカー協会の同意が必要になる。スポーツ振興くじの助成も活用できないか。

市担当者　スポーツ振興くじの助成には人工芝化新設事業があり、他の助成金との併用も可能で

ある。4800 万円を上限に事業費の５分の４を助成している。

参加者　野球場の環境整備を希望している方々は何か要望があるのか。屋外競技同士共存できれば良い。サッカーの公式試合ができる場所が少ないことを理解いただけるとありがたい。

市長　市としては既存の助成制度を調査し、教育委員会を通じて各校にグラウンドの人工芝化について確認したい。加えて人工芝化に必要な広さが確保できるかも確認したい。

参加者　通年プレーできる環境を整備してほしいというのが切実な思い。人工芝に慣れないと選手の技術向上にも結び付かない。実現に向けて考えてほしい。

市長　趣旨は分かるが施策を考える際、規模や経費など具体的な想定をしないと実行できない。近隣の市町村にも参考になる施設があるので、照会をかけて検討したい。